独協通信

題字・天野貞祐

第 79 号
平成 24 年 12 月 15 日発行
発行所　〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1
TEL／FAX 03（3946）6352（直通）
獨協同窓会　発行責任者　浅　野　一

主な内容

会長就任のご挨拶 ……浅野　一…（2）
同窓会長の任を終えて ……鈴木荘太郎…（3）
平成 24 年度総会・懇親会報告 ……（3）
獨協学園元同窓会会長 鈴木浩先生（昭和 4 年中学卒）ご逝去 …佐藤明徳…（4）
大久間先生を偲んで ……本田光芳…（4）
大久間先生を偲ぶ ……根来恭雄…（5）
今年の獨協祭参加は… ……（6）
獨協における PASCH 活動 ……塩瀬　治…（7）
図書館のこと ……須江康司…（8）
ああ九百の健男子 ……澁谷幸夫…（10）
クラス会だより ……（11）
私の近況 ……（16）
獨協中学校 2013 (平成25) 年度入試について ……（20）
吹奏楽部定期演奏会 ……（20）
編集後記 ……（20）

http://www.dokkyo-mejiro.com　獨協同窓会 検索

懐かしの校舎

明治 35 年 10 月 29 日、落成式・卒業式の朝の様子

昭和 29 年　新校舎建設中
旧木造校舎が後ろに見える

昭和 29 年 10 月 22 日落成、10 年前までの校舎

現在の校舎、建築専門誌に掲載される

平成 24 年度 獨協同窓会懇親会　椿山荘

会長就任のご挨拶

会長 浅野 一

本年６月に開催されました平成 24 年度の獨協同窓会総会にて、新たに会長として選任されました浅野一でございます。

副会長の竹内文生さん、幹事長の木原正義さんをはじめ、新任の方も含めて数多くの役員の方々に汗をかいて頂く３年間がスタートいたしました。同窓会のお役目は、どうしても限られた方に集中してしまいがちですが、同窓会の活性化のためにも、多くの方々の力の結集が重要ではないかと考えます。

私は、昭和 42 年（1967 年）に本校を卒業し、同年、設立間もない獨協大学へ進学・卒業の後、セメントの販売を生業としている家業の道へ進みました。本校を卒業してから、もう 45 年が経過してしまったことになります。

当時の時代背景としては…在学中（高校１年）に東京オリンピック（昭和 39 年 10 月）。卒業証書は、天野貞祐校長でした。

現役時代には、あまり学業に熱心では無く、駆け足で大学を卒業の後、社会人として時代の変遷に追い立てられながらこの歳（63 歳）になってしまいました。

今回、同窓会の取り纏め役のご指名を受け、今こんな風に考えております。「少しでも多くの卒業生が同窓会の縁で、楽しいことが増えた！」…と感じてもらえるように汗をかいてみよう！と…これが、「同窓会に関心を持ってもらうには、どうしたら良いか？」という同窓会にとって永年の課題に取り組む第一歩であると認識しています。

また、寄せる思いを母校に伝える使命として…私自身、今日の自分を組み立てている心の部品の幾つかは、まだ未成熟だった年代に母校で作られたことに間違い無いと思っております。渡辺和雄現校長は、生徒達に「自己実現」と「社会貢献」という点を強調されて指導にあたられています。私共同窓会でもこのような方針に沿って側面的にお役に立つことが望まれるところであり、今の子供達にも、より良い環境で大切な時期を過ごしてもらいたいと願い、母校への協力・後援を続けていきたいと考えています。

獨協学園（旧獨逸学協会学校）は、1883 年（明治 16 年）に創立してから、130 年の節目を来年 2013 年（平成 25 年）10 月 22 日に迎えることになります。この周年の慶事に向けて、私共同窓会も果たすべき役割があるのではないかと考え、取り組んで参ります。

この他にも、前鈴木会長時代・元宮田会長時代から継続したテーマであります「会員名簿情報の管理・活用」「母校への後援」「事務局の整備」「財政基盤の拡充」「ホームページの充実」等々も引き続き取り組んでいきたいと思います。

これに加えて、すでに発足しています「獨協学園ドクターズクラブ」「歯科医師獨協会」をはじめ、クラブＯＢ会・職域ＯＢ会など、より実効の伴う同窓会活動をお手伝いすることで、活性化させたいと願っております。

私事ではありますが、平成 20 年春に私共昭和 42 年卒業の同期が還暦を迎える年に併せて学年８クラス全体の同期会を計画し、学内で永井校長にもご出席頂いた行事と椿山荘での懇親会を開催いたしました。100 名を超える出席者で盛会にて楽しいひと時を過ごすことができた訳でありますが、この準備に一年ほど前から、20 名ぐらいの仲間たちと計画を進めた経緯があり、今でもこの時の有志がかなり頻繁に親睦を続けてゴルフ会まで回を重ねております。きっと還暦同期会がきっかけとなり、楽しいことが増えたと感じておられる方が多いのではないかと思います。

今期の役員改選により、汗をかいて頂く新役員の方々は、新任の方も含めて相当の世代先送りとなっております。まだ経験が少なく不慣れな役員もおりますので、励ましの声・ご意見をホームページなどを通じて頂戴できれば幸いです。きっと新鮮な感覚に磨きをかけて、同窓会のお役に立てるものと期待をしております。

この９月からは同窓会長として鈴木前会長に引き続き、学校法人獨協学園の評議員・理事としてのお役目を拝命いたしました。学園の運営に関して広く意見を求められる事になると思います。同窓の皆様のお知恵を結集して学園の繁栄に貢献したいと考えておりますので、宜しくご支援の程お願い申し上げます。

同窓会長の任を終えて

前会長　鈴　木　荘太郎

６年間の任期を終えて、就任当初の経緯と総括を述べさせて頂きます。

東邦大学医学部在任中であった平成 17 年の春に、当時の宮田会長より次期会長就任のお話がありました。私は卒後、同窓会総会及び 35 年卒同期会へ何度か出席したのみでありまして、同窓会活動は無きに等しい状況でした。従いまして、会長の役目には相応しくなく、より妥当な方がおられると固辞しました。宮田前会長の趣旨は、獨協学園における目白の存在意義に関し、あるべき姿を伝える学園理事の役目を期待したいとのことでした。

ご依頼の理由として、平成 12 年に 35 年卒の荒川泰行、松島正治、藤田実彦の 4 名と「獨協 Doctors' Club：DDC」を立ち上げたことを言われました。DDC の発足は時間的に同窓会活動が困難な者同士が 1 年に 1 度必ず集まり、母校への無償の寄与を考える事を目的としました(DDC の HP をご参照下さい)。毎回、DDC の定例会では校長先生と同窓会長をご招待して、母校の現状を伺い、何らかの貢献を検討してきました。宮田前会長は、DDC の趣旨と活動が、学園内に目白の存在意義を理解して貰うことに有効であるとのお考えで、小生への話となったと話されました。同窓会の運営や活動に関しては全く無経験で、役員の皆様のご理解とご協力が得られれば、何とか趣旨に沿った役割を負えるのではないかと考え、お受けした次第であります。

当時、学園理事会では各校の独立分離が論じられており、獨協の創始校である目白の存在意義が殆ど理解されていない状況で、宮田前会長の危機感は決して幻ではありませんでした。当時、学園理事でありました永井前校長、後援会の荒井理事などと危機感を持って意見交換を行いました。また、各校の同窓会選出の理事、評議員との懇談会を通じて、各同窓会における目白への理解を深める機会が増えました。個人的には、寺野理事長と私の上司であった三輪剛先生（東海大内科教授）とは東京大学医学部同窓で、消化器病学会では既知の間柄でありましたので、学会関連の会合などでは意見を交わすことが出来ましたし、梶山前獨大学長とは個人的な意見交換が出来まして、目白への理解を深めて頂けました。また、寺野理事長には DDC に於いて招待講演をお願い致し、医師同士の目線での獨協の歴史的意義を再確認して頂けたと思います。

近年、我国では人口減少、少子化に従い、学校運営は益々厳しい状況となっていますが、幸い獨協中高では志望者が増しており、学園全体も比較的順調な状況を示しております。しかし、今後とも学校と同窓会が協力して、学園の発展に寄与する必要があると思います。6 年間同窓会の実務を役員の皆様にお任せして、至らない会長でありましたが、学園における目白の意義を理解させることは多少とも果たせたと思っております。今後の同窓会の益々の発展を祈念し、会員、幹事、役員の皆様に在任中のご協力のお礼を申し上げて、辞任の挨拶といたします。

平成 24 年度総会・懇親会報告

去る 6 月 16 日（6 月第 3 土曜日）午後 5 時より、母校 5 階小講堂にて、渡辺和雄校長・笠井淳三副校長・本木善崇教頭・江辺勝事務局長にご臨席いただき、平成 23 年度総会が開催された。

議事に先立って、前年度に亡くなられた同窓諸氏の氏名が読み上げられ、故人の冥福を祈り黙祷が捧げられた。今回の総会では、平成 24 年度以降の役員が交代時期となるためそれを含め、議案書に基づき審議が進められた。23 年度事業及び収支決算報告と共に収支差額金処分案が承認可決された。引き続き、24 年度事業計画及びそれに伴う収支予算案など諸案が承認可決された。その後、鈴木荘太郎会長から次期会長として昭和 42 年卒・浅野一氏が推薦され、出席者全員の承認により新会長が選出された。議事進行は浅野新会長へ引き継がれ、監事をはじめとする役員の選任について各候補が承認され、監事：黒沼昭夫（昭 20 ― 5 卒）・中村昭美（昭 41 卒）、副会長：竹内文生（昭 46 卒）、幹事長：木原正義（昭 47 卒）、副幹事長：森上克彦(昭 47 卒)、総務委員長:新井雅安(昭 46 卒)、広報委員長:櫻田可人（昭 40 卒）、会計:谷口有三（昭 53 卒）・神谷善弘（昭 57 卒）の新役員各氏が紹介された。また、鈴木前会長と金前副会長について、本会

に著しく貢献・功労があったとして名誉会員・功労会員の称号を贈呈することが５月 12 日の幹事会において決定した旨の報告がなされた。

議事終了後、渡辺和雄校長より平成 24 年の大学合格状況報告及び中高の現状などについてお話をいただいた。そして、浅野会長の手から渡辺校長へ、学校補助費（図書費・防災用品補助費）が手渡された。最後に、塩瀬教諭（生物科）によるＰＡＳＣＨ活動報告があり、それに参加した高２の牧野友紀君から体験談が報告され、出席者全員が獨協のドイツとの関わりの深さを再認識させられたひと時であった。

総会終了後の懇親会は、６時 30 分より会場を椿山荘・ギャラクシーに移し、竹内新副会長（昭 46 卒）の司会の下に開宴された。鈴木前会長（昭 35 卒）・浅野新会長（昭 42 卒）の挨拶の後、来賓の方々の代表として獨協学園顧問高橋和秋氏と第 22 代校長渡辺先生から祝辞をいただき、そして第 19 代校長戸張敦雄先生の乾杯の音頭により杯を交わし合った。その後、コンクールなどで毎年のように優秀な成績を上げている吹奏学部の報告が長谷教諭からあり、生徒６

名によるミニ演奏を堪能した。更には、歯科医師獨協会の発足について池松武直（昭 42 卒）君から、今年度の獨協祭参加内容について櫻田広報委員長から報告された。宴もたけなわ、３月に卒業した新会員の紹介、全員による校歌斉唱、そして田中建吾（昭 18 卒）氏の閉会の辞、今年の懇親会も盛会のうちにお開きとなった。また、来年の再会を約して…。

獨協学園元同窓会会長 鈴木浩先生(昭和4年中学卒)ご逝去

昭和 28 年卒　佐　藤　明　徳

本年１月に御歳百歳になられ、お祝いに参上した時は、眼力・顔色四方に衰えることなく、矍鑠とした姿で大変お喜びでした。今夏異常ともいえる猛暑の続く８月８日、鈴木浩先生はスズキ病院特別室にて永眠されました。

平成 24 年８月 11 日通夜・12 日告別式、練馬区江古田斎場においてお別れの会が執り行われました。

中・高同窓会としましては、２ヶ月前の総会にて新会長になられた浅野一氏をはじめ、副会長竹内文生氏、昭和 25 年卒功労会員中嶋眞治氏、昭和 28 年卒佐藤明徳共々ご葬儀に参集しお別れいたしました。

元鈴木同窓会長は、戦後の学園混乱期の最中及び天野貞祐先生同窓会長時代の幹事長を歴任し、その後の天野先生ご逝去を受けて会長に就任されました。（昭和 55 年６月、68 歳）　平成９年６月退任される迄の 17 年間、５期の間には学園理事を務められ、北は獨協大学から西は姫路獨協大学に亙る入学式・卒業式に

左＝ S28 卒・佐藤明徳　右＝鈴木浩元会長

出席され、獨協中高の存在を意義あるものとして情熱を傾けられました。そして最後の関門であった新校舎の完成を目前に「体力の限界」を区切りとして勇退されました。

本当に長い間ご苦労様でした。深く感謝申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。　　合　掌

大久間先生を偲んで

昭和 25 年卒　本　田　光　芳

狂気の時代であった。なにも悪い事をしていない生徒の顔を雑巾で拭き、出席簿でぶん殴らないと授業を始めない歴史の教師、暴力教練教官、頭頂部陥没骨折を起こすほどモップの丁字部先端を振り下ろす、ドイツ語を臨時に教えた英語教師。生徒の人格など全く否定された、敗戦直前の狂った時代、なお暴力と縁の無い多くの先生がおられた。奥田、相沢両教練教官、ドイツ語の松室、島田、堂場の三先生、そうして大久間喜一郎先生もその一人であった。

国民服にゲートル、しかし戦闘帽の代わりに中折ソフトは、大久間先生の密かな反戦の意思表現であったのか。鬼畜米英を叫んでいた教頭は、敗戦と同時に溝(ドブ)

昭和 23 年 5 月　戦後初の修学旅行（大久間先生 30 歳の時）

板をひっくり返したように、妙なアクセントで「アメリカ兵は**むじゃーき**だなとか、国民の、国民のための、国民による…」などと宣った。気は良いのだが、サーベルを下げて兵隊ごっこの大好きだった教練教官は、潜在していた英会話能力を発揮して、占領軍兵士を校内隈無く案内、挙げ句のはてに、防火用水プールの床に隠匿されていた多量の３・８銃、牛蒡剣の接収に全面協力し誇らしげであった。芥川龍之介に似た英語教師は、その間ずっと雲隠れしていたのは何故だったのか。

大久間先生は文法の授業で助動詞の活用「れる、られる」で、いわゆるラ抜き言葉の使用を無教養の極みと戒められた。先生はときおり「れる、られる」の呂律が廻らないことがあった。「あー、薬（ヤク）が切れた！」と私が呟いたら、本当に困った奴だという目で睨み付けられた。その頃、衛生室には数学、化学、衛生の教師達がポン友として集い、大久間先生も仲間だという噂があった。覚醒剤ヒロポンは当時中学生でも薬局で購入でき、かくいう私も期末試験では３日間連用、一睡もせず効果は抜群、幸い依存症にもならなかった。先生の奥の細道の授業は面目躍如たるものが有った。月日は百代の過客にしての序の行（クダリ）は暗誦したが、先生は芭蕉の句の鑑賞から、何故か方向転換、誹風柳多留の「役人の骨っぽいのは猪牙にのせという名句があり、猪牙とは吉原通いの舟で、舟に乗れない庶民は通い馴れたる土手八丁、見返柳がどうのこうの」と色気付いた中学生の春のめざめの炎に油を注ぐので、一向に白河の関に着かなかった。Hなどという卑猥な言葉はなかった時代であるから、先生は生徒の反応に「君達は、本当に助平ですねーえ」と、水谷豊のような声で大変ご満悦の体であった。朗読が得意で、生意気盛りであった私は「先生はアナウンサーだったそうですが、声がざらついていて、むしろ悪声の類ですね。漢文の俣野先生の朗読は素晴らしい」なんて喧嘩を売ったが、「君、朗読に美声は絶対條件ではないよ、徳川夢声を聞いてごらん」と軽く往（イ）なされた。

私はドイツ語か国語の教職を希望したが、母の強い願いをいれて医学部に進学した。昭和 31 年日本医科大学を卒業後、平成９年定年退職するまで大学病院という異文化社会にどっぷりと浸り、獨協との縁も粗となったためか、いつのまにか死亡扱いとなっていた。幸いにも岩崎・中嶋・市村三君のおかげで復活、クラス会に出席できるようになった。

下町の吉兆、御徒町の吉池で大豆会（昭和 25 年卒）があり、40 年振りに大久間先生に再会した。とてもお若く、お声も大きく、大変お元気だった。一人一人でのご挨拶が一段落したので「少しひねた同級生がいるが、誰だっけと思っているうちにご挨拶が遅れまして」というと、先生はしげしげと私の顔を御覧になり「君は少年の頃から皮肉屋だったが、相変わらず口が悪いですねーえ」と昔と変らず、相棒・水谷豊のような口調であった。先生のお誕生日が 12 月 13 日だと知り、毎年真紅のバラをお送りした。平成 23 年 12 月 13 日先生からお礼のお電話をいただいたが、残念ながら私は不在で、最後のお言葉を賜わる機会を逸し、帰宅後すぐ折り返しお電話しなかったことが悔やまれてならない。

３月 24 日の御命日には、歌人・鈴木澄子様（大久間先生・夫人）に真っ白なバラをお送りしよう。４月 22 日明治大学の会館で、大久間喜一郎先生を偲ぶ会があり、酒井元獨協大学学長、同級の中嶋君と私が出席した。明治大学では、先生は上代文学の大家として、その門下に大勢の学者、研究者を輩出させたが、獨協中学の若き教師として、江戸文学の洒脱な授業をされ、生徒の心に文学の楽しさを刻み込まれたことをお話することができた。

先生も私も、Fischer-Dieskau の Schubert と Maler が大好きであった。その 20 世紀最大の歌手も５月に世を去ってしまった。先生ともう少し、音楽談議に花を咲かせたかった。先生は Fischer-Dieskau の H.Wolf はお好きだったでしょうか。

大久間先生を偲ぶ

昭和 25 年卒　**根　来　恭　雄**

大久間喜一郎先生（70 歳の時）

大久間先生がなくなられて、とてもさびしいです。獨協のほか、国学院・明治大学・高岡の万葉博物館などで活躍でした。

クラス会（大豆会）では、楽しい人間勉強の方面でも、いろいろ教えてくださいました。たのしい先生でした。もっともっと長生きをしていただきたかったです。

今年の獨協祭参加は…

明治９年、ドイツへの長期留学者であった品川彌二郎・青木周蔵・山脇玄・平田東助・桂太郎らは、同じくドイツに長期留学した北白川能久親王殿下を会頭に、研究会「獨逸同学会」を立ち上げました。明治14年９月、同メンバーと共に西周・加藤弘之らは、日本近代国家を形成するために、この「獨逸同学会」を母体に「獨逸学協会」を設立し、明治16年10月22日獨逸学士養成の為の「獨逸学協会学校」を創設しました。

明治20年代に入ってからの獨逸学協会学校でのドイツ学は、国家学中心から人格教育へと転換しつつあり、このことは獨協の私学としての自立化へと繋がっています。この頃の獨逸学協会学校は、明治末期～大正期に活躍する俊英を幾人も輩出しています。丁度この時期、学習院との兼務で教員として在職していたのが、ドイツ語学者・大村仁太郎でありました。

明治36年、品川彌二郎・山脇玄・加藤弘之らの信頼を得ていた大村仁太郎は、加藤弘之に代わって第４代校長となり、学校経営を担うこととなります。そして、初代校長・西周の教育理念「知育・徳育・体育」の三育に力を入れ、ドイツ留学時に会得したドイツの新しい都市的市民的な感覚を学問と教育の中に取り入れました。また、教育者として、日本におけるドイツ語研究の水準を高めたばかりではなく、近代ヨーロッパの合理的精神をもって明治教育界の旧慣を克服しようとしたのです。こうして獨逸学協会学校は、大村仁太郎の下に私学らしい校風が形づくられました。

今年は、獨協教育の礎を成した学祖であるこの「大村仁太郎」先生に焦点を置き、先生のドイツ学と教育の足跡を辿ると共に、明治期における我が校の近代的知性をベースとした教育精神と私立学校としての姿とを浮き彫りにできれば…、と展示企画いたしました。

今回の展示は、獨協学園資料センターの全面的な協力により、2008年３月17日～４月30日に開催されました同資料センター・第一回企画展『大村仁太郎展』の展示内容 ≪「よみがえる明治における獨協の教育精神」―近代的人格形成と外国語教育にかけた大村仁太郎 ― ≫ の原文または一部を活用させていただくことができました。

お陰様で、例年同様、多くのご来場者をお迎えし、無事に終了することができました。毎年のように思うことですが、在校生徒・ＰＴＡだけでなく、来年・再来年と我が校の受験を検討中の児童とその保護者の方々へ獨協史の一端を紹介できることです。このことは、同窓会の母校サポートの一部分を担えているのではないか、と考える次第です。

獨協学園資料センター・中村女史の強力なバックアップに、獨協中学・高等学校図書館スタッフ皆様の惜しみないご協力に、そして、展示物作成と小冊子発行に多大なるご尽力をいただきました株式会社王文社・鈴木社長様に、また、設営と撤去にご協力を頂いた同窓生の方々に、心より感謝を申し上げます。

目白だより

獨協における PASCH 活動

塩　瀬　　治（理科）

2009 年にドイツ連邦共和国の公式文化センターであるゲーテ・インスティトゥートと獨協中学・高等学校のあいだで「学校：未来を拓くパートナー」（通称ＰＡＳＣＨ）の協定書が取り交わされました。ＰＡＳＣＨとは、ドイツ連邦共和国外務省がコーディネーターとなり、1000 校以上のドイツとパートナーシップのある学校間ネットワークを世界中に構築し、現代のドイツとドイツ社会に対する若者の関心を呼び起こそうというプロジェクトのことです。このプロジェクトに今年、３月２８日から３１日まで静岡の御殿場でドイツ語を学び、文化交流をしている中国、インドネシア、インド、韓国、台湾、日本の６カ国の若者が集まりました。獨協生も４人が参加し、総勢１００人の若者がドイツ語を媒体言語とした宿泊研修に参加しました。都内に集まってからバスで富士山麓の洞窟めぐりをし、残雪のある所を散策しました。インドやパキスタンの生徒たちはほとんど雪を見た事がない様子で大はしゃぎでした。

また昼食ではお店の人の親切な指導でみんなでうどんをつくって野菜をいれ 「ほうとう」 をつくりました。

このあたりから若者間の異文化交流がはじまりました。御殿場の研修所についてからこの PASCH 事業の中心である社会、生物、化学、合気道、演劇のワークショップがはじまりました。教師５人がドイツ語の先生やゲーテのドイツ人のサポートをうけながら各授業をドイツ語で行いました。

例えば早稲田高校の中山先生は実際に薬品を処理しながら藍染めの実験を行いました。

獨協中学・高校の塩瀬は生物から学ぶ人間の科学技術（バイオミミクリー）をあつかいました。演劇講座ではドイツ人教師による白雪姫の創作演劇があつかわれました。さらにお茶、お花の講習も行われました。どの授業も一方的な講義形式にしないで実物をあつかったり、各自が自分の考えや意見を積極的に言うことを重要にしていました。たとえドイツ語がつたなくても授業に参加している各国の生徒がいっしょに解り合おうという事が最も大切にされたのです。

この授業によって、参加者はドイツ語を通じてお互いの文化の違いや考え方の違いが明確になり、とまどいはあるものの、そこを乗り越えたときのお互いの共感と笑顔が生み出され、その体験は本当に貴重なものだったと思います。

最後のお別れ会では各国の出し物が披露され、獨協生は日本の柔道をドイツ語で説明し、実際に技を披露しました。その息のあった実技演技とドイツ語の説明に拍手喝采でした。今回の PASCH 活動はすっかり国を打ち解けあい、別れをおしむ有意義な企画でした。最後に参加した生徒（牧野　友紀 - 写真右端）の感想文を紹介します。

獨協生のＰＡＳＣＨ活動報告

高校２年１組 38 番　牧　野　友　紀

本校は 2009 年９月に、ドイツ文化センター（ゲーテ・インスティトゥート）が設立したドイツ語を勉強している世界中の学校の協定である「ＰＡＳＣＨ」に調印しました。現在日本では、このＰＡＳＣＨという協定に木更津工業高等専門学校、早稲田大学高等学院、北園高校と獨協の４校が加盟しています。ゲーテ・インスティトゥートが主催する Start-Deutsch 試験に合格した生徒は、このＰＡＳＣＨが行う様々なドイツ語のプログラムに参加することができます。高校１年生からドイツ語を履修できる獨協では、今まで多くの先輩方がプログラムに参加してきたのです。

高校１年の冬に Start-Deutsch 試験Ａ１という資格を取得した私は、３月末に静岡県御殿場市で開かれた「国際ＰＡＳＣＨキャンプ」に参加しました。ドイツ語を学んでいるアジアの高校生が集まり６日間を共に過ごすというものです。獨協からは４人の生徒が参加しました。このキャンプでは日本文化を体験してもらう茶道講座や生け花講座、ドイツ語を使ってオリエンテーリングなどの共同作業がありました。勿論ドイツ語での化学や体育といった授業もあり、本校の塩瀬先生と熊田先生は生物の授業をしてくださいました。このキャンプの模様をＮＨＫが取材し、教育番組「テレビでドイツ語」で８月７日に放映されました。お別れパーティーではそれぞれの国の文化を紹介し、獨協は柔道の実演をしました。６月 16 日には私がこのキャンプの報告を獨協同窓会総会で発表させていただきました。

このような日々の活動について、ＰＡＳＣＨ加盟校の生徒は集まり「Japan Heute」という１つの新聞を制作し世界に発信しています。獨協からは同級生の高橋君と私の２人が編集に携わっていて、前回は「日本の夏」というテーマに沿い、かき氷についての記事を書きました。新聞の記事やＰＡＳＣＨでの私たちの活動はゲーテ・インスティトゥートのホームページから見ることができます。

このＰＡＳＣＨという協定は、高校でドイツ語に触れることができる本当に貴重な機会です。毎年ドイツ語能力に優れた生徒が、３週間本場のドイツで学べる「ユーゲントクルス」という制度があるのも、獨協がＰＡＳＣＨ加盟校だからです。

世界的な不景気、特にユーロ圏が不安定な近年、比較的経済的に安定したドイツへの関心が高まっています。獨協伝統のドイツ語教育をもう一度見つめ直すべき時だと私は思います。数々の大先輩の声やこのような報告の機会を頂いた今、「私たちはもっと学ばなければならない」と、実感しました。

これからドイツ語を学ぼうとしているみなさん、獨協にはＰＡＳＣＨという力を伸ばせるチャンスがあります。

獨協同窓会の皆様、先生や先輩方々、ありがとうございました。

図書館のこと

情報センター部長　須江康司（ドイツ語科）

同窓会員の皆様のなかで、比較的年配の方々の記憶にある図書館は、旧校舎の２階の端、現在のＬ字型の校舎で言うと丁度生徒ホールかその外側のベランダのあたりに位置し、重い引き戸を開けると、しんと静まり返った閲覧室、その右奥がカウンターと書庫。校舎の他の部分のざわめきとは隔絶され、司書の先生の目が隅々まで行き届いた、「隙（すき）」のない空間だったのではないでしょうか。ある意味、ある程度の年齢以上の人間にとって、獨協に限らず「学校の図書館」として広くいきわたっているイメージ通りの図書館でしたが、私とは、この学校に勤め始めた１９９１年から９６年の夏まで、わずか５年間のお付き合いでした。その後校舎が改築され、現在の図書館となり、組織もＰＣ室を加えて「図書部」から「情報センター部」へと改組されたのが９７年。図書館は今年１６歳、ちょうど現役の高校１・２年生と同い年ということになります。

校舎を新しくするのにともなって、図書館も新しくなる…。旧来の図書館をそのまま移設するという考え方もあったのでしょうが、ここで、大きな発想の転換がありました。「図書館が生徒の学校生活の中心とするにはどうしたらよいか」というコンセプトです。

まず、アクセス。　校舎の隅ではなく、生徒の動線に近いところ（わざわざそこへ行くつもりがなくても毎日前を通る場所）に図書館があれば生徒はおのずと足を向けるのではないかと考えました。

次に、入りやすさ。入口付近にカウンターを置かず、利用者に「監視されている」という気持ちをできるだけ感じさせないような雰囲気作りを目指しました。

こうして産声をあげた図書館ですが、現在に至る16年の間も、絶え間なく変化・進歩をつづけています。目新しさも手伝って、また、当時は家庭にもあまり普及していなかったパソコンへの関心が高く、ＰＣ室が人気を博したせいか、以前の図書館に比べ明らかに利用する生徒の数が増えていきました。そして図書館の内容も、それにともなって少しずつ変化してきました。

おかげさまで、現在蔵書数約７万冊、年間貸出点数約８千冊。これは1200人規模の男子校としては、異例に多い数字であるということができます。休み時間も放課後も、様々な目的をもったたくさんの生徒が図書館を訪れます。閲覧席で自習する者、最新の雑誌や新聞を読みふけるもの、新着図書の棚を物色する者、司書教諭の先生方とおしゃべりする者。一様にどことなくリラックスした様子で、図書館での時間を楽しんでいるようです。

今は開催されていませんが、私中高協主催の夏期学校図書館研修会に出席した折にも、獨協の図書館の明

るい雰囲気や、それをもたらしている様々な試みが高く評価されているように感じました。

獨協図書館のユニークな試みのいくつかをご紹介しましょう。

まず、外見的魅力。従来の学校図書館で利用者の目に映る風景を想像してください。本の背が隙間なく並んでいる、重々しい雰囲気。鉛筆一本落としただけで感じる、司書教諭の鋭い視線。そうではなくて例えば町の書店のような、平積みの本、書棚で表紙を見せて置かれている本、キャッチコピーで飾られたポスター、客の疑問に笑顔で答えてくれるコンシェルジュのような店員など。最近の書店は、一つのテーマパークのような様相を呈しています。程度さえわきまえれば、それを学校図書館にも利用できるのではないかと考えました。

蔵書の表紙をカラーコピーして簡単な文章とともに壁に並べ、装飾を兼ねた蔵書の紹介コーナーを作ったり、フェア・特集と称して、タイムリーな話題に関連する、様々な分野にわたる本を一カ所にまとめて展示したり、生徒と蔵書との距離をできるだけ短くする工夫をしています。

特に外部からも評価されているのが、「帯コンクール」かもしれません。中学一年生の三学期、国語の時間をいただいて、全員が図書館にある好きな本一冊を選んでそれに帯をつけるという、美的なセンスと文章力が問われる課題です。新入生への先輩からのメッセージとして、優秀な作品は一年間図書館の壁を飾ります。

こうした企画の実現には、司書教諭の先生方のご尽力が欠かせません。三名の女性スタッフの図書に関する博識とセンスとが、とかく頭の固くなりがちな情報センター部教員には思いもつかないような発想をもたらしてくれています。

一日に一度は行きたい、一度行くといつまでもそこにいたい、と思ってもらえるような空間づくりには、ある意味成功したと自負しています。しかしながらこんな図書館にも課題が山積しています。一つはスペースの問題。蔵書はどんどん増えます。でも書庫のスペースには限りがあります。二つ目は伝統校としての財産の保存・管理の問題。獨協祭での同窓会による展示でも紹介されたような獨協の長い伝統を物語る貴重な資料の整理がなかなか思うように進みません。

さらには情報の新しい時代への対応。この 20 年間の IT 環境の変化はすさまじいものがあります。２年ほど前に、新築されたばかりのある学校の図書館を見学しましたが、こと IT に関連する設備の充実には驚かされました。いまやインターネットを利用した情報収集は、学術研究の分野でも、日常生活でも、欠かすことのできないものとなっています。タブレット端末やスマートフォンの普及の様子を見ていると、「読書」という行為そのものの形態も変わりつつあることが感じられます。「本」というメディアの将来もどうなるのか予断を許しません。獨協の図書館も、そのような時代への対応を視野に入れなければなりません。

しかし､それでも知的財産としての「書物」を蓄え、利用できるようにしておくという､「図書館」本来の仕事も忘れるわけにはいきません。物としての「本」には､やはり捨てがたい魅力があります。そして「本」を手にとり、ページをめくり、活字を追う。このような「情緒」のある情報収集の場を提供するのも依然として図書館の重要な責務だと考えています。中学生・高校生と「書物」との接点として、学校図書館ならではの機能をますます充実させていくことができるよう、今後も研鑽を続けていかなければならないと思っています。

ああ九百の健男子

昭和 28 年卒　澁　谷　幸　夫

私は昭和 28 年に獨協高校英語科を卒業しました。部活は野球部でした。今回、同窓会誌に寄稿する機会を頂いたので、当時の野球部の様子や、その後大学に進学してからの部活の思い出などをお話ししたいと思います。

当時、狭い道路を挟んで中学・高校の木造校舎があり、それぞれに校庭がありました。その二つの校庭を各部で曜日別に使用日が割り当てられていましたが、野球部には校庭はサイズ不足でした。その為、ボールの飛距離が出ると校舎の屋根瓦を割り、曲がると近隣の家に飛び込んでしまいクレームを受けました。グランドは小石混じりでイレギュラーバンドが日常茶飯事、ボールも傷み、予算も無いので糸目が切れた程度では当番制で家に持ち帰り修理して再利用しました。バットも木製だったので練習中に破損も多く、決して恵まれた環境での練習とは言えませんでした。夕刻ボールが見えなくなるとベースランニングをし、筋力強化のため自動車のタイヤ引きもしました。しかし、この程度の努力では都予選はニ～四戦止まりでした。それでも部活動は充実しており、特に練習後の空腹時に食べたコッペパンに揚げたてのコロッケの味は今でも忘れられません。

その後、私は「明治大学野球部島岡学科」（学業は商学部）に進学し野球を続けました。そこで島岡監督について簡単にご紹介しておきますと、御大（島岡監督）は明大在学中に応援団長を務め、野球部員ではありませんでした。卒業後は兜町の会社に就職、その後兵役で海軍に入隊、終戦後に明治高校の野球部監督に就任しました。当時は運動具も不足気味でしたが、御大は私財をつぎ込んで明高を春夏三回も甲子園に送り込みました。そして、その時の主力メンバーを引き連れて明大の監督に就任しました。御大自身の野球の経験は小中学校時代のみと言われ、技術的には学生の方が上だったかも知れません。しかし、御大は精神野球（人間力）へと舵を切り、就任二年目に戦後初めて明大野球部を優勝させる実績をあげました。

この精神野球については、我らの大先輩天野貞祐氏が日本学生野球協会会長在任中に「学生野球憲章」を作られ、その前文に次のように述べています。

「学生の持場を逸脱したりしては我々の野球は成り立ちえない。勤勉と規律とは常にわれらと共に。試合を通じてフェアの精神を体得する事。幸運にも驕らず悲運にも屈せぬ明朗強靭な情意を涵養する事。いかなる困難をも凌ぎうる強健な身体を鍛錬する事。」

御大は、この憲章の精神に基づいて指導してきたと後年述べています。そして日常の試合で御大は「今日の試合は勝って来い」の一言しかなく、負けると理由の如何に拘わらず制裁が私達を待っていました。特に打倒早慶を掲げ、手を抜いたと判断されると気合入れられました。卒業まで一度も気合を入れられなかったのは高田繁（横浜ベイスターズＧＭ）だけでした。その彼も試合に負けた日の夜中に起床命令を受け、部員全員でパンツ一枚になり、グランドで正座させられた（グランドの神様にお詫びするため）そうです。また、部員で一番トッポイ？伝説男・星野仙一も数えきれない程、気合を入れられたと聞いています。星野とは十二歳の年の差がありますが、ＯＢ会などで会うと旧知の如く談笑できます。これも同じ釜の飯を食った仲間同志で共通の思い出話が出来るからでしょうか。

さて、昨今東京六大学出身の六十五歳以上のロートルで「六球会」という組織を作り、年一回秋に神宮球場を貸切り懇親試合を行っています。私も参加して楽しんでいます。ルールは投手板を二メートル短縮する以外は正式サイズで、草野球顔負けの熱戦を行っています。主な顔触れは、杉下茂、土井淳、岩本堯、佐々木信也、巽一、関根潤三、高林恒夫、南原晃などで、皆さんも一度は目にした事がある人達だと思います。その他に東大野球部ＯＢに藤井裕久、与謝野馨（衆議院議員）もいます。

最後に八十年近い人生を振り返って、野球は私の生活のかなりの部分を占めていたように思います。現役時代は獨協の名を高めたいと思って頑張りましたが、残念ながら実現しませんでした。が、高校生活自体は、クラスが少なかった為に同学年全員の顔と名前が一致しており仲間意識を持つことが出来ました。その中でも特に野球部で一緒だった仲間には卒業後、医大教授、製靴業経営、すし業界役員、工務店経営等、また先輩には芸大教授、ペンション経営など多種多様の分野に分かれて活躍・貢献された方達がいます。これら様々な分野の人々と今も交流が続いている原点は、高校時代の付き合いがあった為だと思います。

先月、新校舎を見学しました。当時からは想像できないくらい立派な建物でした。これで、百五十周年も胸を張って迎えられると思いました。伝統の男子校、先輩にも恵まれ、優秀な教師陣も揃っています。

「少数精鋭　九百の健男子　我が母校　獨協に栄光あれ！」　（終）

クラス会だより

昭和 20 年 5 卒（ドイツ語科） 芽城会

平成 24 年 5 月 20 日銀座 4 丁目『がんこ』で正午から始まった。今年は卒後 60 年にして初めて参加という、九州臼杵からはるばる岩森（岩合）御夫妻が、久し振りに出て来てくれた。今回の参加は、下記のように 19 名であった。卒業時約 150 名いたクラスメートも現在 53 名になった。昨年は尾崎、釜江、小森、河合、陳、西沢の 6 人が鬼籍に入ってしまい寂しい限りである。

会の冒頭、昨年逝去した級友の冥福を祈りしばしの黙祷を捧げた。久し振り参加の岩森君のために各人それぞれ自己紹介の後、岩森君のその後についての紹介があった。

会は賑やかに進み、瞬くの間に 3 時間が過ぎ、牧君の閉会の挨拶で会はお開きとなり、来年の再会を約してそれぞれ帰路に付いた。

出席者:藤山、黒沼、加藤、掛札、鈴木、池田、岩森夫妻、畦森、佐藤、米田、木村、平田、平澤、岡田、馬場、根本、牧、神山。　（常任幹事：神山・記）

昭和 25 年卒 大 豆 会

平成 24 年 10 月11日 (木)、霞ケ関ビル 35 階東海倶楽部で開催した。今年も出席者一同日頃の善行の故、晴天に恵まれた。

戦時下、敗戦直後の苦難をなんとか生き延び、今や齢 80 歳を超える超高齢者となったが、すっかり悪童に返り獨協時代を語り合い、懐かしんだ。体調不良のため出席できない友も多かったが、一日も早い快復を祈るのみである。

次会大豆会は、平成 25 年 10 月 10 日（木）午前 11 時 30 分、霞ケ関ビル 35 階、東海倶楽部。

出席者：後列左から：染谷尚、斉藤義治、中嶋眞治、吉田隆史、前列左から：石川洋、西田隆一、本田光芳、鈴木規允、松田務（敬称略）　（世話人：本田光芳・記）

昭和 27 年卒 ドイツ語組一泊クラス会

昭和 21（1946）年 4 月戦後の第 1 回生、旧制中学最終生として入学したドイツ語組 10 名中生存者 7 名で、ドイツ語組一泊クラス会催行の意見が纏まり、 4 月 15 日春爛漫の好季節に参加者 5 名は東武浅草から日光～奥会津へ旅発った。80歳に近い老人達の気持ちは正に中学時代の遠足気分。遠慮・気遣い全く無用、それに天候にも恵まれて本当に楽しいクラス会でした。同窓会から補助金を頂き一同深く感謝御礼申し上げます。　（ＡＴ記）

昭和 31 年卒 ドイツ語科クラス会

平成 24 年 6 月 6 日クラス会を有楽町コパンコパンで開催しました。銀座獨協クラブが閉鎖され、日比谷君の紹介で今年度からコパンコパンを使わせてもらいました。

毎回出席をお願いしている富岡近雄先生はご同伴くださる御令室の体調がすぐれないとのことで御欠席。「友、遠方より来る」の代表格・芦屋の小野君、又常連の松崎君も体調不良で欠席、柴田君・山口（和）君と欠席できない人

が目立つ中での開催でしたが、宴が進むにつれ毎度の会の雰囲気で盛り上がり、話もはずんで楽しい一刻を過ごしました。

皆が持っている雰囲気・落着きなど、過ごしてきた年輪の重みに間違いなく、皆 74 歳という歳月を重ねてきているという感じ。だからこそ一日一日、一刻一刻を大切に過ごさねば･･･と覚悟を新たにした会でした。（山口眞護･記）

昭和 37 年卒　37年会

６月 23 日に新宿野村ビル内割烹 “ 黒瀬 ” で小島晋治先生をお迎えして開催しました。出席者 15 名。

会は、畑（旧・坂本）嶺明君の話、ドイツ在住の橋本左右平君も電話で参加、大野正昭君の韓国でのインプラント手術の話等で盛り上がりました。畑君は、演劇関係（劇団を持ち、脚本・演出・俳優を続けている）にいると若い人達との交流も多く、学生時代と一番変わっていないという結論になりました。

２次会で近くのカラオケ店に移り、酔っぱらい達の熱唱が遅くまで続きました。

大久保典彦、大久保一彦、大出雅祥、姫井卓二、三浦陽典、春野尚正諸君の連絡先をご存じの方は、世話人一寸木孝義（TEL : 03-3315-7415) 迄連絡を下さい。

来年は古希を迎えますので、 37 年の同窓生クラスに関係なく旧友を温めたいと考えております。

悲報ですが、長島信行君が 23 年９月に、荒木達郎君が 24 年２月に永眠しました。　合掌

幹事：佐藤篤信（大野正昭・記）

昭和 41 年卒（ドイツ語科）　1-3 糸井会

去る９月 22 日（土）、漸く残暑が影を潜め一日限りの過ごし易い陽気となったこの日、第３回「1-3 糸井会」を、昼食タイムの椿山荘タワー棟５Ｆ「カトレア」にて開催しました。高校１年入学時、糸井先生主管のドイツ語クラスで初めて顔を合わせて早や50年。目出度く前期オフィシャル高齢者の年齢に達した節目を迎え、またこのところクラスメートを毎年一人づつ見送っている現状もあって、できるだけ顔合わせの機会をとの趣旨で開催となったものです。当日は糸井先生を含めて 14 名の出席。山梨県河口湖からの荒、栃木県佐野市からの丸山を始め、佐野、福島、近藤、冨山、江島、坂田、斉藤（旧・中里）、伊藤（努）、西山、素木、伊藤（新）、そして海外旅行に国内自転車ツアーにと相変わらずお元気な糸井先生と久々に懐かしい顔ぶれが揃いました。

既にリタイヤ、現役で仕事続行中、開業起業等々現状は様々でも、獨協高校時代への輝かしい懐かしき思いは皆同じ。修学旅行のバスガイド嬢の話、授業中のエピソードの数々などに盛り上がり、あっという間に予定時間が経過。クラス会終了後は、開催中の獨協祭見学ということで、我々の在学中とは打って変わった現代的デザインの校舎内に伺って一巡させていただきました。同窓会の部屋にもお伺いしましたが、お騒がせして失礼致しました。

写真は、糸井先生と高校１年から 50 年経過後の面々。前列左から江島、伊藤（新）、糸井先生、素木、富山、丸山、後列左から佐野、坂田、荒、近藤、西山、斉藤（旧･中里）、伊藤（努）、福島。　（文中敬称略／伊藤（新）・記）

昭和 41 年卒　古 川 ３８ 会

今年の古川３８会は、９月 29 日（土）12 時 30 分より、定例になってきた新宿のドイツ料理店「カイテル」にて開催。参加者は昨年より少なめで１５名でした。今年は先生方はお呼びせずに、クラスメートのみの会となりました。会のスタートすぐに校歌斉唱、そのあとは一人づつ近況などの報告、会の中ほどでドイツ語の歌を歌い、そのあとは

最後まで楽しく、にぎやかな時をすごしました。

二次会は、14 名出席で、歌って騒いで、大騒ぎのカラオケボックスでした。また来年の再会を約束しつつ、夕暮れの新宿で解散となりました。　　（文責：佐藤邦仁）

昭和 41 年卒　獨協1月会

獨協 1 月会、平成 24 年 1 月 21 日～ 22 日に開催しました。 場所：静岡県伊東温泉：伊藤小涌園 。 今回の幹事は、私中村が引き受けました。

出席者は、上林英雄先生、小杉喬志君、堀江重之君、森田芳和君、河崎達彦君、長村洋君、下村博一君、中村昭美の８名と少ない参加者となりましたが、47 回の長期開催をしてきましたので、続けていこうということになりました。

今回は、前回参加の佐藤和美君提案で上林先生にお会いしに行くという事で、伊東に在住している先生の近い伊東温泉に参りました。

言い出した佐藤君本人が参加しないので、参加者からクレームもでましたが、45 年ぶり再会の下村君が参加してくれましたので、話に盛り上がり、先生との学生時代の鼓笛隊やドイツ語で習った「のばら」や「菩提樹」などの歌を口ずさみ、最後に校歌を合唱して宴会を終え、続きを部屋で二次会ということになりました。

来年は平成 25 年 1 月 19 日（土）、場所は高田馬場近くで藤井君をひっぱりだそうということで、来年も元気に参加しようという事で、翌朝散会しました。（幹事：中村昭美）

昭和 45 年卒　１組ドイツ語クラス「独窓会」

2012 年 9 月 15 日（土）金有一先生（先生の初めての教え子。中学３年・高校１年時の主管）をお招きし、独窓会【1964 年入学 1970 年３月卒業１組ドイツ語クラス（クラス替えなし）】を新宿「悠」にて開催いたしました。私たちののクラスは中途入学（帰国者組）・退学者を含め総勢３５名（内一人逝去）。当日は先生を含め 16 名の出席でした。前回のクラス会は３人の主管の先生方（新宮・金・大久間先生）をお招きし 2001 年 9 月 23 日開催ですので 11 年ぶりの再会。（前回は 14 名＋３人の主管の先生で 17 名出席）。会は金先生の近況報告と乾杯の音頭、前回のクラス会には元気な姿を見せていた高田君（08 年６月 27 日逝去）の冥福を祈っての黙とう。歓談。出席者からの近況報告・欠席された方がたの報告等々和やかなうちに１次会は終わりました。あっという間の２時間でした。

２次会はカラオケ。12 名参加。昭和青春歌～ＡＫＢまで、時の過ぎるのを忘れ、大変賑やかな楽しいひと時を過ごしました。次回開催を誓って散会。３次会（カラオケ）・４次会・５次会へと新宿の雑踏の中へ消えて行きました。（青木・記）

昭和 49 年卒　3年4組クラス会

平成 24 年 9 月 1 日、新宿「さしみ居酒屋　花車」にて、卒業 30 周年として開催した前回から８年振りとなるクラス会を開催いたしました。

今回も我らの主管、 石井征次 先生をお迎えして当日集まった 16 名の級友とともに楽しいひとときを過ごしました。今ではすっかり真っ白になった髪の毛の先生ですが、その若々しさ、特に我らを魅了した石井節は健在で、担任をしていただいた３年間の思い出話に花が咲きました。今回は山梨県より１回目以来参加の梁瀬君、卒業以来初の参加となる竹中君が加わり、夫々の青春時代にタイムスリップした３時間でした。その後、中締めするも場所を変えての２次会へは、帰宅するものもなく全員参加で大盛り上がり、大笑い。５時間という今回のクラス会もあっという間に過ぎ、還暦も秒読みとなった今、次回のクラス会も元気な姿で再会することを約束して名残惜しいクラス会が散会となりました。　　（清水規夫・記）

クラス会だより

昭和 49 年卒　3年3組金有一先生クラス会

梅雨が明け本格的な暑さの中、7月 21 日（土）に恵比寿「時の間」で恩師金有一先生のご出席を賜り、初参加の八丁さん母娘と滝沢弘明君を含め総勢 14 名にて開催致しました。1年8ヶ月ぶりのクラス会のためか、高校時代の楽しかった思い出話の数々、参加者および残念ながら今回欠席となった同級生の近況報告の話題で、大いに盛り上がりました。一層のクラスの絆が深まったと思われます。あっという間の2時間半が過ぎ、会の結びには八丁さんが次回の幹事を引き受けて下さいました。（萩野君が補佐役）今から次のクラス会がとても楽しみです。　（宮田智之・記）

昭和 53 年卒　獨協ハーフ会

去る9月8日浅草ラ・ラリータ吾妻橋にて恒例のハーフ会を開催しました。当日は恩師冨岡卓先生の古希のお祝いも兼ね、13 名の出席がありました。

話題のスカイツリーを目の前にしたおしゃれな景色を堪能しながら各自近況の報告などで盛り上がりました。

ほとんどが二次会に参加し、久しぶりに獨協生にもどり、大いに語り合いました。

卒後 30 年以上経過すると各自子供の進学・自身の健康・親の逝去や介護の問題等々悩みを抱えておりますが、人生ハーフ、残りの人生楽しみましょう !!　同期の皆さん、また来年お会いしましょう。　（幹事：西原 由恭）

昭和 53 年卒　酉の市五三会

同学年有志により昭和 50 年（在学中）から、38 年間欠かすことなく続いている浅草お酉さまもうで。今年も例年通り「酉の市五三会」として同期が集まりました。11月 20 日（二の酉）20 時より、たわら町「日本海」で懇親会を催した後、23 時前に鷲神社へくりだしました。

昨年から音海紀一郎先生がご出席くださり、和やかで楽しいひと時を過ごしております。鷲神社では、各自が思い思いのペースで鳥居をくぐり社殿を参拝し、1年の無事を感謝し来る年の幸を願ってまいりました。華やかな境内の熊手市店街を歩いてぬけると、屋台街でお祭り気分を味わい、皆、熊手を片手にほろ酔い気分で帰途につきました。

（鈴木・記）

昭和 57 年卒　3年4組七夕同窓会

梅雨空の七夕に卒業 30 周年を記念した同窓会が神山町「まめひろ」で開催されました。参加は主管の萩野先生、遠路沖縄からの江口を始めとした 13 人の級友が集まり、また他クラスから当時は厳しかった先生と一献を傾けようと生徒会長であった山田、中村（博）、真野、佐藤（芳）が駆けつけました。萩野先生から大きく変わりつつある母校の近況報告に一同驚き、獨協大学の教授となった板場を祝い、婚約や再婚など明るい話題に終始した。在学中は交わることの少なかった級友と卒業して 30 年を経て親交が始まることも稀ではなく、獨協の素晴らしさをあらためて味わえた夜でした。また会場となった「まめひろ」は同級の太田が経営するおでん屋で最近では同期、同窓のたまり

場として発展中です。

平成 22 年卒　Tommy‘s2010

2010 年 3 月 10 日に高校を卒業し、ちょうど 2 年後の 3 月 10 日に、3 年 4 組クラス会を当時担任であった冨井源三先生にご出席頂き、池袋の居酒屋「一休」にて開催いたしました。この日は、卒業時のクラス人数の半分以上にあたる２１名が参加いたしました。久しぶりに元クラスメイトに会ったので、高校時代の思い出、現在の近況、今後の進路等の話で楽しい 2 時間半があっという間に過ぎました。次回は、今回残念ながら来れなかった人も是非参加していただき、末永く会が実施できることを心から願います。

（山田要介・記）

松本歯科大学獨協会

今年の獨協会は、昨年に引き続き神楽坂の「かぐら坂志満金」にて、6 月 23 日（土）に開催致しました。当日は昨年同様 6 月の梅雨時にもかかわらず、天候に恵まれ、幹事一同ほっとした次第です。

今回も 2 期から 22 期卒業の 13 名の先生方にお集まりいただいて大変な盛り上がりでした。

２次会は、神楽河岸の飯田橋セントラルプラザビル 20 階の居酒屋「北海道」にて、神楽坂の夜景を肴に深夜まで大変な盛り上がり。 その後各々先生方は、それぞれの街へ？店へ？家へ？消えて行きました。

今回の松本歯科大学獨協会において新人事が決定し、会長に真砂功先生（昭和 47 年卒）・副会長には岡和彦先生（昭和 49 年卒）・幹事長には廣野敬先生（昭和 48 年卒）の３名の先生方が選出されました。

会の様子を撮影した写真には昨年同様に約 32 年前当時の実際に本学の臨床実習で使用したブルー白衣を着用した者 1 名がおり、参加者一同、自宅からどのようにして会場の神楽坂までやってきたのか考えつつ、次回の再会を誓い閉会いたしました。　（昭和 53 年卒：橋口・記）

東　邦　獨　協　会

平成 24 年 6 月 14 日、品川大井の和洋割烹「竹むら」にて東邦獨協会を開催いたしました。

東邦大学医学部在学中の獨協同窓生との懇親ということで毎年開催されていた東邦獨協会ですが、一時期の同窓生入学者の減少に伴い開催が滞っておりました。ここ数年で再び入学者の数も増えてきており。 S 35 年卒松島正浩先生の声掛けのもと、久々の東邦獨協会開催となりました。参加者は 11 名、うち学生３名（河西貞智、矢尾尊英、山崎僚）でした。今回は東邦大学医療センター大森病院勤務の医師を中心に集まっていただきましたが、今後は大橋、佐倉の附属病院を含め広くＯＢの輪も広げていきたいと考えております。

参加者：松島正浩、中村光彦、笹本修一、緒方秀昭、前村俊満、久保田喜久、鈴木孝之、久保田伊哉（敬称略）

（平成５年卒：鈴木孝之・記）

柔道部OB会 総会・懇親会

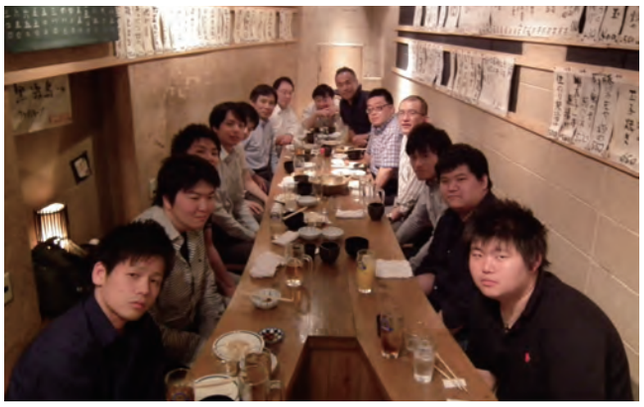
去る 5 月 26 日（土）、六本木「ほの字」に於いて、顧問・萩野元祐先生をお迎えし、平成 24 年度柔道部ＯＢ会総会ならびに懇親会が開催されました。

柔道部ＯＢ会は、昭和 29 年卒業のＯＢを最年長に会員数が 236 名を数え、現在もそれ以前にご卒業の先輩方を発掘中です。例年、会報誌「気力」を発行し、合宿・納会・校内柔道大会・送別会・自習教室など部の行事を援助し、世代を超えたＯＢ同士の親交を深めております。今年も日頃から稽古に会の運営にと汗をかいてくれる若い世代のＯ

クラス会だより

Ｂを中心に多数のご出席いただき、事業報告・計画、会計収支報告・計画が承認され、文武両道を目指す柔道部を応援していこうと一致団結いたしました。総会終了後は和やかで楽しい懇親会となりました。親子ほど年の離れた世代を超えて杯を酌み交わせるのも、学生時代に同じ志をもち稽古に励んだ者同士ならではの楽しみのひとつです。

母校と顧問の先生に感謝するのはもちろんのこと、現役柔道部員を直接指導してくれる若いＯＢにはいつもながら頭のさがる思いです。これからの柔道部の繁栄と母校の一層の発展を祈念しつつ、散会となりました。　（鈴木・記）



私の近況

●昨年 12 月に入院、現在リハビリを兼ねた老人施設にてお世話になっております。　弓削 義邦(昭 10 卒)

●独協通信、有難う御座居ます。楽しく読まさせていただいて居ります。92 歳、何とか元気にやって居ります。歯科医師獨協会、発足お目出度う御座居ます。
中島 一（昭12卒）

●毎会のご連絡ありがとうございます。歩行不調で残念ながら缺席させていただきます。母校の益々の発展をお祈り申し上げます。　湯浅 幸男（昭 13 卒）

●独協通信を毎回楽しみにて拝読しています。同窓会の役員の諸先生に感謝御礼申し上げます。小生幸いにして戦争体験者として卒寿を迎え、現在元気に毎日を送っています。獨協学園在学中は、ドイツの「ヒットラー・ユウゲント」を校舎に迎えての会合を思い浮かべました。　福本 博（昭 15 卒）

●元気に暮しています。　丸毛 英二（昭 15 卒）

●現在一人住いで近所の娘に世話してもらっています。二年前大動脈解離で入院、高血圧を注意して薬を飲んでおります。遠くまで一人では出掛けられませんで、総会その他には出席できません。
望月 隆明（昭 16 年・4 年修了）

●毎回「独協通信」楽しく拝見して居ります。今回揚才の 17 年卒山田武麿君とは同期で、無事今年米寿を共に迎える事ができた「しあわせ」を痛感します。思えば 70 年前の獨協時代は戦争を前にした灰色の青春時代でした。それでも 5 年間無欠席で皆勤賞を頂戴した事を憶えています。厳しい受験戦争后に入学した大学生活は戦中のため勤労奉仕の連続・学部中途よりの学徒出陣・復員・就職難・食糧難と不如意な生活を過ごし、やっと安定した生活に入れたのは電通勤務時代の 30 年間。思えばよくぞ今日迄無事に来られたものよと、感謝の毎日を過ごしています。
桜井 保光（昭 17 卒）

●時々シルバー人材センターで、初心者にコンピューター操作やデジカメ使用法のアドバイス等をやっていたが、最近は自宅で過ごす事が多い。
張 俊一郎（昭 17 卒）

●いろいろお世話様でございます。主人・道彦は長年入院をしております。　津田 道彦（昭 17 卒）代筆

●父は脊髄小脳変性症という難病のせいで、食事・入浴・時々の通院以外は、ほとんど寝たきりです。それでも、図書館から本を郵送してもらったり、クロスワード・パズルをやって過ごしています。
羽野 外志雄（昭 18 卒）代筆

●医科歯科の学生時代の臨床ライターと入局した神経に２名の先輩がおられました。又、私がライター時代の学生に後輩がおりました。これからの歯科医師にどの様な情報が必要とされるか十分に検討して、有効な活動となることを期待します。　石岡 靖（昭 19 卒）

●装道着物学院は退職致しまして、ゆっくりと過ごしています。昨年腰を痛め、週２回リハビリに通っております。５３会には毎年出席しております。皆々様お身体にお気をつけてお過ごし下さい。
尾島 昭彦（昭 19 卒）

● 85 歳になりました。身体の方は、どこと云って良い所も無く、満身創痍の形で命永らえております。下手なゴルフも今は止め、古い仲間と時々の麻雀位で楽しんで居ります。余り社会に貢献する事も少なく申し訳なし。　鈴木 泰（昭 19 卒）

● 86 歳となり大過なく過ごしております。年一回の５３会に出席出来る事を楽しみにしております。
根本 泰宏（昭 19 卒）

●昨年秋頃より、脆弱老人(左下肢痛＋)となりました。
古畑 忠輝（昭 19 卒）

●平成 20 年に脳梗塞で倒れ、歩行困難になり、現在に到っております。　村山 和良（昭 19 卒）

●高令に伴い体調不良も重なり、現在通院しております。病院通いの記載がカレンダーに多くなってまいりました。長く続いていた昭和 19 年卒の七・七会も行われなくなりました。　吉田 嘉明（昭 19 卒）

●元気ですが、腰痛のため歩行が困難です。リハビリをして頑張って居ます。　大井 渙（昭 20 卒）

●卒後既に 67 年が経ち、今年 7 回目の年男。150 人いた級友は 53 名となった。私はまだ週 3 日は仕事を

私の近況

し、後は趣味三昧の日を送る。今、長生きの幸せをかみしめている。　神山 一郎（昭 20 卒）

●高齢で体調がすぐれず、総会・懇親会を欠席いたします。　酒井 孝祐（昭 20 卒）

●ここ数年独協から東京慈恵会医科大学に来られる人がほとんど居られません。平成 24 年度も残念ながらおられなかったのを独協通信で知りました。残念なことです。一昨年小児科の白井信夫教授が retired され、現在は景山茂教授が慈恵独協会の会長をしています。来る 6 月 10 日には慈恵独協会を開くことになっております。なお、この 4 月から慈恵平成 6 年卒の吉田清嗣君が生化学教室の主任教授になられましたことは、嬉しいことです。皆さんににお知らせします。　永野 允（昭 20 卒）

●昭和 20 年英語科卒業。ここ 1 年程で足もとが不安で外出・夜間の会合 etc. はひかえておりますが、何とか元気でおります。御盛会をお祈りいたします。　藤村 勲（昭 20 卒）

●歳の割に健康。クラス会に必ず出席。　藤山 俊彦（昭 20 卒）

●独協学園の益々のご発展を常に祈りながら、後輩の社会での活躍を期待するものが強いです。同窓会役員の方々の常々のご苦労に感謝申し上げます。今回は体調不良で残念ながら欠席申し上げますが、同窓会のご活躍により独協健児の今後の誇りと結束が強固なものになると確信しています。今後の発展の為に宜しくお願い申し上げます。　牧 豊（昭 20 卒）

●体力が歳なりに弱まりましたので、午前診療のみ。　宮田 光郎（昭 20 卒）

●お蔭さまで音楽活動を続けています。　秋満 義孝（昭 21 卒）

●今年 81 歳となりました。おかげ様にて毎日元気に過して居ります。昨年は「獨協祭」に伺い、盛況の中で旧友達とも逢い、大変楽しい一日を過ごしました。　上田 豊（昭 23 卒）

●友人達と散策・ゴルフ・旅行など悠々自適の生活を送っております。診療は長男に殆んど任せ、専ら自分の健康に配慮しております。　小林 明博（昭 23 卒）

●昨年はじめて獨協祭訪問。丁度合唱祭開催中で、中学 1 年 4 組と 5 組を聴きました。ボーイソプラノも聴こえ、あの年齢を思いました。古本を買い、うどんを賞味。旧友に会い、心に残る一日でした。　橋本 徳朗（昭 23 卒）

●句会で「施拳呈写楽済」と号したら、「そりゃあ狂歌だ」と笑われました。或るお笑いタレントの「歯がない、毛がない、先がない」のギャグに苦笑して居ります。　島本 護（昭 24 卒）

●昨年の秋に沖山秀司先生、鈴木荘太郎先生のご高配を頂き、松島正浩先生の前立腺セカンドオピニオンを賜りました。ここに本誌をお借りして厚くお礼申しあげます。その后は元気に暮しております。　宇野 庫太（昭 25 卒）

● 80 歳を過ぎましたが、診療の方は相変わらず行って居ります。禁煙して居りますが、アルコールの方は 1 ～ 2 Wに 1 回飲んで居ります。日曜日はＮＨＫテレビの将棋・囲碁対局で楽しんで居ります。　酒井 博（昭 25 卒）

●当年 80 歳、神戸通算 40 年。母校と離れて暮すのは残念ですが、平成 7 年阪神大震災で家内の母と共に神戸に住む事情が生まれ、義母没后も神戸での年金生活です。　橘 蓁（昭 25 卒）

● 80 歳になったが、外見上は元気で、週平均 3 日、1 日平均 3．5 時間、皮膚科診療をしています。　本田 光芳（昭 25 卒）

● 80 歳を直前にして、体のあちこちにトラブルはありますが、大事にいたらず、日々を過ごさせていただいていることに感謝しております。　土屋 隆（昭 26 卒）

●通学時の子供達の安全を守るため、地域のボランティア活動に参加していますが、子供達から元気をもらっています。　小島 敏昌（昭 29 卒）

●幹事の皆様、ご苦労様です。小生、普通の元気でおります。皆様に宜しくお伝え下さい。　滝沢 丕呂務（昭 29 卒）

●小生は、後期高齢者の仲間入りをしています。重症心身障害児施設に勤めて 25 年以上になります。院長の職を頂いておりますが、今自分の手を見つめると、当初自分の思い描いていた成果の 1 ／ 1 0にも満たないのは自分の才能だと思う時、何か心寂しさと苦笑いが交措します。しかし、可愛い孫達をみて、神に感謝しなくてはと思っております。　町田 裕一（昭 29 卒）

●後期高齢者になり、先生はもちろん友人も亡くなった人々も多数いて、出席しても若い人々とも話が合わず、残念ですが欠席いたします。　長畑 茂（昭 30 卒）

● 75 歳になりました。博物館（日本科学未来館、国立科学博物館）でのボランティア活動と市民農園で野菜作りに精を出しています。　頭本 元清（昭 30 卒）

●私も今年で後期高齢者になりました。まだまだ元気に、ゴルフ・テニスと地元の人達と楽しんでいます。この歳なって地域のお手伝いをするべく、390 軒の自治会長をすることになりました。小中学校 3 校の会合、市役所、消防署関係の連絡、地元 18 自治会のお付き合いあり、地元自治会の各種イベントと忙しい毎日になりました。しばらくは元気にと頑張っています。　森川 博（昭 31 卒）

●齢 74 歳になり、現在（財）川崎市老人クラブ連合会常任理事、川崎市麻生区福祉協議会評議員として活動しています。今後とも健康が続く限り、社会に地域に根を張り、生きがいを満喫していきたいと思っています。　小川 秀明（昭 32 卒）

● 73 歳となりましたが、産婦人科の現役医師として仕事に励んでおります。趣味の写真で、北海道・青森・金沢・京都・奈良で自然を楽しんでおります。来年に

私の近況

は息子に後継させたいです。　田中 雅治（昭 33 卒）

●今年 72 歳になりますが、声がれがあり、昭和大藤が丘病院で初期の喉頭癌が判明、放射線治療に入ります。最近の医療技術を信じています。

竹崎 昂介（昭 33 卒）

●まだ楽しんで働いています。すっかり信州人になりました。地震なし、原発なし（県内）、風光明媚。しかし心配なのは、隣県浜岡原発。原発について皆さんどう思っているのでしょうか。　福井 秀義（昭 33 卒）

●厚生労働省及び小児科関係、医師会等の公職を総て辞退し、現在は小児科本来の校医、幼稚園・保育園・児童相談所等の健診医等、子供との接触を楽しんでいます。　竹本 桂一（昭 34 卒）

●今年 72 歳になり、高校時代なんて夢のようです。高一の時ワンゲルで青森から十和田湖迄歩いたのを、昨日のように思い出します。現在も登山は続けています。　金子 宏（昭 34 卒）

●内科診療所（循環器科・内科）を開業し、32 年が経過いたしました。この間休診する事なく毎日診療を続けております。子供三人は独立し、現在妻と二人暮しとなりました。長男（群馬県伊勢崎市民病院・循環器科勤務）、次男（岩手医大・循環器センター勤務）、娘（歯科医・東京都豊島区北大塚歯科医 tel 03・5907・8500 勤務、お近くの方は御利用下さい）。高齢となりましたが、患者さんと楽しく接することが出来る開業医生活を続けてゆきたいと思っています。

中島 泰彦（昭 34 卒）

●退職後、蝶の採集を本格的に再開し、少年時代に憧れだったキシタアゲハやアポロの類をインドネシアやモンゴルに出掛け、少年時代の夢を実現させています。

金 有一（昭 35 卒）

● 30 年来の痛風あるも適度に友人達と飲んでいますが、最近膝の軟骨が減り、孫と出歩くことが苦痛になりました。　高山 学（昭 35 卒）

●会社勤務を止め、3 年が過ぎました。完全なる年金生活です。健康第一をモットーにウォーキング・ハイキング・ゴルフ等体を動かすことも専念。元気です。

吉田 浩（昭 35 卒）

●今年 70 歳になります。運転免許証を返上してゆっくり移動すことにしました。　石代 紘（昭 36 卒）

●退職して約 10 年、のんびり過ごしています。現在は大学時代に夢中になった合唱をＯＢとして頑張っています。今年は恩師畑中良輔先生が他界され少々さびしい思いです。母校の高校の同窓会等に参加したいのですが、同期の人達の参加が毎年少なく出席を躊躇しています。お世話になった先生方も多く他界され、なかなか参加できません。　清田 正隆（昭 36 卒）

●現在、社会福祉法人広陵福祉会の事務長として３っの保育園の運営に携わっています。今回の総会は、当日町の行事があるため、欠席させていただきます。次回は出席しようと思っています。宇都見 忠（昭 37 卒）

●肉馨の復権を求めたプロジェクト「La Voix des Poètes（詩人の馨）」を創設し、プロデュースする。2006 年 10 月馨の先達詩人・白石かずこの馨から始まり、2012 年 5 月 31 日で第 764 回に達す（継続中）。

松本 匡史（天童大人）（昭 37 卒）

●自宅で外科・内科・整形外科を開業致しております。

桜井 靖宏（昭 39 卒）

●元気にしております。同窓生での集まり等ありましたらご連絡下さい。　大塚 克史（昭 40 卒）

●退職し坦々と過ごしています。　石原 陽一（昭 41 卒）

●今年 65 歳になります。お陰様で毎日元気に整骨院をさせていただいております。天野校長の朝礼でのお話（真の自由とは）忘れた事がありません。患者さんにまで偉そうにお説教する始末です。自身の戒めが第一である事を忘れてはいません。自由とは自己の健康管理にも欠かせない大切な事であると考えます。自らを律する事も真の自由です。　礒谷 良仁（昭 41 卒）

●いつも独協通信、お送り頂き有難う存じます。昨年平成 11 年は病に倒れまして現在リハビリ中ですが、元気にしております。残る人生を大事に生きたいと思う毎日です。又、最近、天野校長の人生哲学が懐かしく思い出します。　玉生 隆三（昭 42 卒）

●同期の会長候補、浅野一君を応援しています。

山内 健司（昭 42 卒）

●ワンゲル部のＯＢの先輩・後輩らと低山歩きを楽しんでおり、下山後の宴会は歩いているより長時間におよぶこともしばしば…（笑い）。　長瀬 治（昭 43 卒）

●総会に毎回欠席で申し訳ありません。独協通信はいつも読んでいます。今後ますます「獨協同窓会」がご繁栄されることをお祈り申し上げます。

笹山 健（昭 44 卒）

●本年で卒後 40 年になります。父の後を継ぎ、開業して早 18 年になります。時代に取り残されぬよう、まだまだ勉強の日々です。　箕田 進（昭 47 卒）

●これ迄の獨協への恩返しの意味で、今年から同窓会の幹事をさせて頂くつもりです。少しでも獨協学園の発展に貢献できればと考えております。

五十嵐 整（昭 48 卒）

●勤務先ですが、都政モニターとして霞が関・東京女子医大・渋谷区・中野区・杉並区があります。また、放送大学教育振興会の業務部で主に教科書の購入や取り寄せ等があります。都政モニターの拠点は丸の内と新宿です。洗足クリニックと山ノ内病院に以前入院・通院をし、現在は障害基礎年金をもらっています。

鈴木 豊彦（昭 48 卒）

●本年３月 31 日をもって退職いたしました。今後は、第二の人生のスタートに向けて、自らを磨く時間にしたいとと考えております。　田原 理一郎（昭 48 卒）

●この頃の私は、父母と祖母・祖父、実弟などが復帰して来るようになったり、結婚の話が舞い込んで来ています。保険会社の対応が緊張状態で、みずほ銀行の

私の近況

担当者から入金になると話をきいているところです。
立川 暢英（昭 49 卒）

●東日本大震災で避難訓練を怠っていたのと教師の判断ミスから小学生 74 人を津波で死なせた石巻市立大川小学校の遺族にグリーフケアを行なっています。教育サイドは過失を認めず謝罪しないので、暗礁にのりあげた感じです。
奈良 隆寛（昭 49 卒）

●いよいよ、終の住処（佐久市）での新しい生活が始まります。残りの人生、穏やかに過ごせればいいな・・・。
田中 謙光（昭 50 卒）

●本年 4 月に役職定年を迎え、本定年迄 4 年となりました。時の経つのが早い事に最近つくづく感じます。
中田 俊一郎（昭 50 卒）

●形成社印刷（株）の会社名を残し、１Ｆ・２Ｆ・３Ｆをテナントとして貸しています。そしてビル管理をしています。
入野 満哉（昭 51 卒）

●蔵前で開業して 20 周年を迎えました。
宮下 浩平（昭 51 卒）

●東京都荒川区東日暮里で内科診療所を開業しています。同級生よりも今まで知らなかった同窓生との出会いが多く、うれしい今日この頃です。獨協同窓会常任幹事をつとめています。
谷田貝 茂雄（昭 51 卒）

●母校の発展をうれしく思っております。しかし仕方ありませんが、知っている先生方に会えなくなり、さみしい限りです。ときどき旧校舎の３階からみた美しい櫻を思い出し、あの頃をなつかしく思っております。
吉崎明彦（昭 51 卒）

●数年前からインターネットの普及により、ミクシィやフェイスブックなどから同窓生たちの近況を知ることができるようになりました。より多くの同窓生が登録することで、ネット上での同窓会もできるのではと期待しています。
久志本 明人（昭 52 卒）

●いつも独協通信が届くのを楽しみにしています。今回は歯科医師獨協会が発足し嬉しさもあります。同窓会のさらなる発展を期待して居ります。
平山 雅仁（昭 52 卒）

●H 23 年 12 月まで扱っていた分娩・入院を中止しました。H 24 年からは、体外受精を含む不妊症クリニックとして診療しています。分娩を止めたことにより、24 時間待機状態から解放され、不眠症が治りました。最近、スポーツする時間もでき、体調が良くなりました。
五十嵐 俊夫（昭 53 卒）

●地元で開業し約 11 年になります。現在、内科・外科・循環器診療を行っています。趣味はランニング・登山で、最近はフルマラソン・ウルトラマラソン・山岳マラソンと積極的に活動しています。
山崎 徹（昭 53 卒）

●柏市医師会副会長の立場として、柏市議となり、市に対して専門家としての意見・提案を述べ、改善を図っております。
長瀬 慈村（昭 54 卒）

●長男が獨協を卒業し、日本歯科大に進学して早５年。臨床研修で一生懸命な姿は、全く同じ道を歩いた自分と重なります。今年度、次男が獨協中学を受験します。見事合格し、多感な青春時代を獨協学園で迎えて欲しく思います。
山崎 裕司（昭 54 卒）

● 2012 年東京マラソンを 3 時間 37 分で完走しました。
勝谷 雅昭（昭 55 卒）

●大学卒業後 25 年、破骨細胞研究一筋から骨代謝疾患治療薬（デノスマブ：第一三共）が臨床応用されました。
宇田川 信之（昭 56 卒）

●横浜で新規開業して 12 年目となりました。先日は緒方君、田中君、林君、秋元君と会いました。その他、北城君、奥村君、中島君、桜井君、堀君と会い、楽しいひと時を過ごしました。皆元気な“おっさん”となりました（笑）。
石田 徳人（昭 59 卒）

●昨年、結婚しました。妻もＥＳＳに属しており、話が合ったことからパートナーになってもらいました。英語をまじめに学んでおいて良かったと思った瞬間でした。ありがとうございます。
武方 浩紀（平 02 卒）

●同窓生とフットサル続けています。
若井 現（平 02 卒）

●仕事の傍ら、1 歳になる娘華子の子育てと趣味の遠州流茶道に、充実した日々を過ごしております。同窓生諸兄の御活躍を心からお祈りいたします。
春宮 淳一（平 07 卒）

●久々の東京生活。10 年近く離れると様々変ってますね。目白周辺もそうでしょうか。また訪ねてみたいです。
須川 淳太（平 10 卒）

●日々、目の前の生徒たちとと楽しく過ごしています。気がつけば、獨協を卒業して干支が一周しました。
森 文彦（平 13 卒）

●今、長崎大学医学部で学生生活を送っております。
菊田 龍（平 16 卒）

●平成 23 年明治大学卒業後、東京外国語大学院に進学。現在、今年 4 月よりドイツ・ルール大学ボーフムに留学しております。日本語教育を勉強中。来年 3 月帰国し、その後大学院に復学予定です。
高井 隆介（平 19 卒）（母・代筆）

●医学部 5 年となり、日々勉強に励んでいます。
村松 孝洋（平 19 卒）

●予備校でのアルバイトも 4 年目となり、受験にとても詳しくなりました。本の出版や講演会の依頼も受け、充実した日々を送っています。現在は大学院入試に向けて勉強中であり、まさに受験一色な日々です。
小池 健人（平 20 卒）

●第 38 回東京六大学合同演奏会に向けて、練習の毎日を送っています。学業面では、進学振り分け間近に迫っており、工学部航空宇宙工学科への進学を希望しております。
小島 隼一（平 23 卒）

●現在浪人中。予備校に通って来年の受験に向けて勉強中です。
高見 謙（平 24 卒）

●早稲田大学文学部 1 年在学中。
藤坂 龍之介（平 24 卒）

獨協中学校 2013 (平成 25) 年度入試について

	第１回入試	第２回入試	第３回入試
出願受付	１/２０（日）～１/３１（木） ※１/27（日）を除く ９：００～１６：００ ※１/３１（木）は９：００～１３：００		１/２０（日）～２/４（月） ※１/27（日）を除く ９：００～１６：００ ※２/４（月）は９：００～１３：００
試験日	２/１（金）	２/２（土）	２/５（火）
合格発表日	２/１（金）１９：３０～２０：３０ ２/２（土）１０：３０～１５：３０	２/３（日）１０：００～１５：００	２/６（水）１０：００～１５：００
入学手続日	２/２（土）～２/５（火） １０：００～１５：００	２/３（日）～２/５（火） １０：００～１５：００	２/６（水）・２/７（木） １０：００～１５：００

※詳しくは生徒募集要項をご覧下さい。

編集後記

今回は、新旧役員の交代報告の他、目白だよりとして「ＰＡＳＣＨ活動報告」「獨協中高・図書館のこと」を生物科・塩瀬先生とドイツ語科・須江先生にご協力いただいた。

そして、獨協同窓会に長年ご尽力いただき、今年ご高齢で亡くなられた鈴木浩元会長について佐藤明徳君（S28 卒）に、また、獨協教育に長年力を注がれた大久間喜一郎先生を偲ぶ記事を吉田光芳君（S25 卒）に執筆いただいた。年を重ねる毎に、かつて獨協に深く関わっていらした諸先生・諸先輩の悲報に接することが増して来る。この中に、獨協ならではの貴重な歴史を感じ、感謝の念を抱く。合掌。

役員の交代に伴い、この会報の編集委員も交代。長年この任に就かれていた竹内文生君（S46 卒）の労を労うと共に心より感謝。そして、不慣れな後任の手助けをお願いするわがままをご容赦。　（桜人）